

令和7年度 はごろも小学校の取り組み

I 研究主題名：

主体的に自分の考えや気持ちを表現できる児童の育成

～外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動の工夫を通して～

II 研究主題設定の理由

これまでの外国語活動・外国語科の授業において、本校の児童は、積極的に英語表現を聞いたり、基本的な表現を使って質問したり答えたりすることができる児童が多い。その一方で、英語を用いて自分の考えや気持ちを表現することに苦手意識を持つ児童や相手意識や目的意識をもってコミュニケーションをとることを経験してきていない児童がいる。そこで、外国語活動・外国語科において、教師が外国語を用いたコミュニケーションを楽しむ活動を工夫することで、児童が相手とよりよくコミュニケーションをとることの楽しさや大切さを実感し、主体的に自分の考えや気持ちを表現できるようになるのではないかと考え、本テーマを設定した。

III 学年・領域

5、6学年では「Junior Sunshine」、3、4学年では「Let's Try」、各出版社の年間指導計画、1、2学年では、市の提供する年間計画を基に指導を進める。

1、2年の指導内容

- ・あいさつ、自己紹介
- ・天気、曜日、数
- ・果物や野菜
- ・体の部位
- ・気持ち
- ・色や形
- ・動物や昆虫
- ・行事

Let's Try!1,2



Junior Sunshine 5, 6



IV 各学年の取り組み

1 1学年の取り組み

LESSON「Let's move- Action verbs」の学習では、動きを表す英語表現を学んだ。ALTと一緒に、動きに合わせてリピートしながら音声に慣れ親しんだ。先生やクラスの友達が言った“I like to (run/jump/skip/...)”のカードにタッチするゲームやクイズを通して、外国語の音声の特徴について知り、楽しんで活動した（写真1、2）。



写真1 児童同士のやり取り①



写真2 児童同士のやり取り②

2 2学年の取り組み (Topic: 「Stationery」)

歌やダンスを通して、基本的な表現を繰り返しインプット&アウトプットできるように工夫した(写真3)。借り物ゲームでは、“Do you have ~?” “Yes, I do./No, I don’t. Here you are. Thank you.”と、児童同士で質問したり答えたりする活動を行った(写真4)。ALTやHRT、友達とのやり取りを通して表現に慣れ親しみ、楽しんで活動する様子が見られた。



写真3 ALTと児童の活動

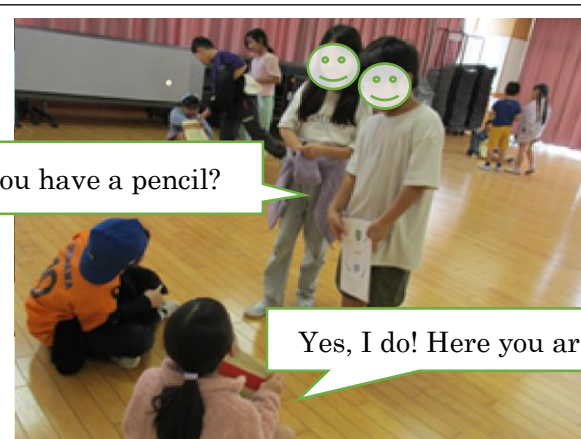


写真4 児童同士のやり取り

3 3学年の取り組み (Let's Try 1 Unit 8 「What's this?」)

「Unit 8 What's this?」では、単元のゴールを「友達とクイズ大会を楽しもう」と設定した。単元入替した前単元「Unit 9 Who are you?」では、動物の色や鳴き声、体の特徴などについての英語表現に慣れ親しみ、それらを使ってヒントを出し合うゲームやクイズに取り組んだ(写真5)。この活動を発展させ、シェイプクイズや足あとクイズ等を通して、これまで学んだ英語表現を生かしてクイズに取り組んだ。本単元のヒントクイズでは、前単元の活動を発展させ、動物だけでなく果物や野菜、食べ物、スポーツなど、児童が自分でクイズにしたいものとそのヒントを考えた。”Hint 1; It's (color/shape//特徴等)…” ”What's this?” “It's a (answer).”と、簡単すぎず難しすぎないようにヒントの出し方を工夫して、互いに楽しめるように活動していた(写真6)。



写真5 動物ヒントクイズの様子

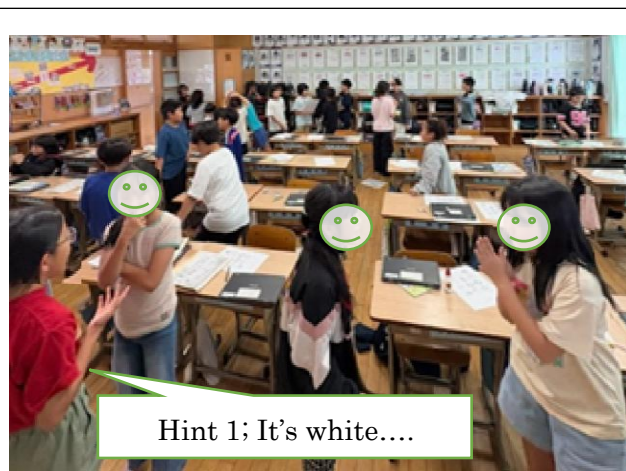


写真6 クイズを出し合う様子

4 4学年の取り組み (Let's try 2 Unit 9 「This is my day. ぼくの日」)

Unit 9 「This is my day」の学習では、日課に関する表現を学んだ。Teacher says ゲームやメモリーゲームを通して、音声とジェスチャーを一致させながら表現に慣れ親しんだ。Final Activity で、「これまでに学んだことを生かして、自分のことを伝えよう」と単元ゴールを設定したことで、好きなもの、お気に入りのもの、自分の一日の過ごし方など、児童一人一人が話す内容を考えて取り組む様子が見られた。(写真7、8)。



写真7 児童同士のやり取り



写真8 児童同士のやり取り

5 5学年の取り組み (Lesson 8 「My Hero」)

「友達や家族にマイヒーローのことを伝えよう」という単元のゴールを設定した。なぜマイヒーローなのかを考えることで、自分のことを支えてくれている存在であるということに気付き、伝えたい内容を整理した。児童は、マイヒーローの得意なことだけでなく、自分の気持ちや普段してくれていることを友達と伝え合うことをゴールにして学習を進めていた。家族や友達、習い事のコーチのことなど、感謝していることや将来の夢につながる内容などの発表も見られた(写真9、10)。



写真9 児童同士のやり取り



写真10 児童の発表の様子

6 6 学年の取り組み

(1) 単元名 **Welcome to Japan.** 日本のよいところをしょうかいしよう (開隆堂『Junior Sunshine 6』Lesson 2)

(2) 単元の目標

日本の文化についてよく知るために、名物や名所、行事などについて、具体的な情報を聞き取ったり、短い話を聞いて概要を捉えたり、日本の文化のよさについてよく知ってもらうために、内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話したりすることができる。また、日本の文化のよさについて書かれたものを読んで意味がわかる。

(3) 単元の評価規準 ◎中心領域「話すこと(発表)」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> We have ~ in ~., We have ~ in ~., You can ~., It's ~.及びその関連語句など主な言語材料について理解している。</p> <p><技能> 日本の文化のよさについて、主な言語材料を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。</p>	<p>日本の文化のよさについてよく知ってもらうために、日本の名物や名所、季節ごとの行事などについて、内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。</p>	<p>日本の文化のよさについてよく知ってもらうために、日本の名物や名所、季節ごとの行事などについて、内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。</p>

(4) 単元の指導計画・評価計画 (全8時間)

時間	ねらい	・学習活動	評価規準			評価方法
			知技	思判表	主	
1	単元のゴールを知り、学習の見通しを持つ。	・紹介する内容の役割分担を決める。			○	行動観察 共有ノート
2	日本や沖縄の文化を紹介するために必要な英語表現を知る。	・既習表現を使って話す。 ・簡単に言い換えることができるか考える。 ・相手に必要な紹介内容を考える。	○	○	○	行動観察 振り返りシート
4	日本や沖縄の文化を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝える。	・グループ同士で発表を聞いて、互いに内容や表現についてアドバイスをする。		○	○	行動観察 振り返りシート
6	ALT に日本や沖縄の文化を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝える。	・ALT に分かりやすく伝えることができるか、実際にスピーチしてみる。 ・自分やグループの課題に気づき、相談して改善する。	◎	◎		行動観察 振り返りシート ◎パフォーマンス評価
7	海外から来た先生方に日本や	・海外から来た先生方に、日本や沖縄の文化について分かりやすく紹介する。 ・相手の興味関心に合わせて伝えるために、質問したり、相手の質問に答えたりする。		◎	◎	行動観察 振り返りシート
8	沖縄の文化のよさについて、既習表現を使って分かりやすく紹介する。					

(5) 指導の実際

第1時では、「海外から来た先生方のために日本のすてきなところを紹介しよう」という単元のゴールと単元計画を確認した(資料1)。ロイロノートの共有ノートを使って、グループのメンバーやグループ同士で相談しながら、紹介する内容に関する役割分担を決めた。第2、3時では、児童はどのような内容を伝えるか、既習表現を使ってどのように表現したら相手に分かりやすいか考えながら活動を進めた。教師は、中間指導においてより分かりやすい表現方法や発表内

容に改善していけるように全体で共有した。第4、5時では、グループ同士で互いのプレゼンに対して、感想やアドバイスを伝える活動を設定した（写真11、12）。第6時では、ALTとFTにプレゼンする活動を設定した。ALTの反応やアドバイスから、紹介する内容や表現方法など自分自身の課題に気づき、グループメンバーで協力して改善した。Final Activityでは、海外から沖縄に来ている先生方を迎え、日本や沖縄の文化や食べ物等について紹介した（写真13、14）。「初めは緊張したが、先生方の反応が返ってきて楽しくなった。」「うまく言えなかったところもあったけれど、先生方に日本の文化を紹介することができてよかった。」と、多くの児童が最後の活動において、それまで準備してきたことを発揮して伝えることができた振り返っていた。

GOAL 海外から来た先生方のために
日本や沖縄のすてきなところを紹介しよう。

すてきなところが伝わる紹介の仕方
 （何を、どのような表現で伝えるか）

8 Final Activity 先生方にプレゼンする。

7 前日リハ、各担当の仕事確認

6 プレゼンの最終チェックをする。

5 プレゼンを改善する。②

4 プレゼンを改善する。①

3 プレゼンの準備をする。②

2 プレゼンの準備をする。①

1 プレゼンの役割分担を決める。

資料1 単元計画





写真 13,14 Final Activity の様子

V 成果と課題

1 成果

- (1) 天気や気分の言い方、色や形、文房具、様々な動きなど、身近な事柄に関する英語表現を繰り返し聞いたり言ったりすることで、積極的に表現しようとする姿が見られた。
- (2) ゲームやチャンツ、ペアやグループ学習など様々な学習形態を通して、基本的な表現に慣れ親しむことができた。毎時間単元のゴールを確認して活動を始めることで、目的意識を持って、練習したりコミュニケーションをとろうとしたりする児童が増えた。
- (3) 目的に応じて聞いたり、基本的な英語表現を使って話したりする様子が見られた。児童自身が単元の見通しを持ち、自分のめあてを設定できるようになってきた。ゴールの活動に向けてやり取りする中で、主体的に自分の考えや気持ちを伝えようと活動する児童が増えてきた。

2 課題（改善策）

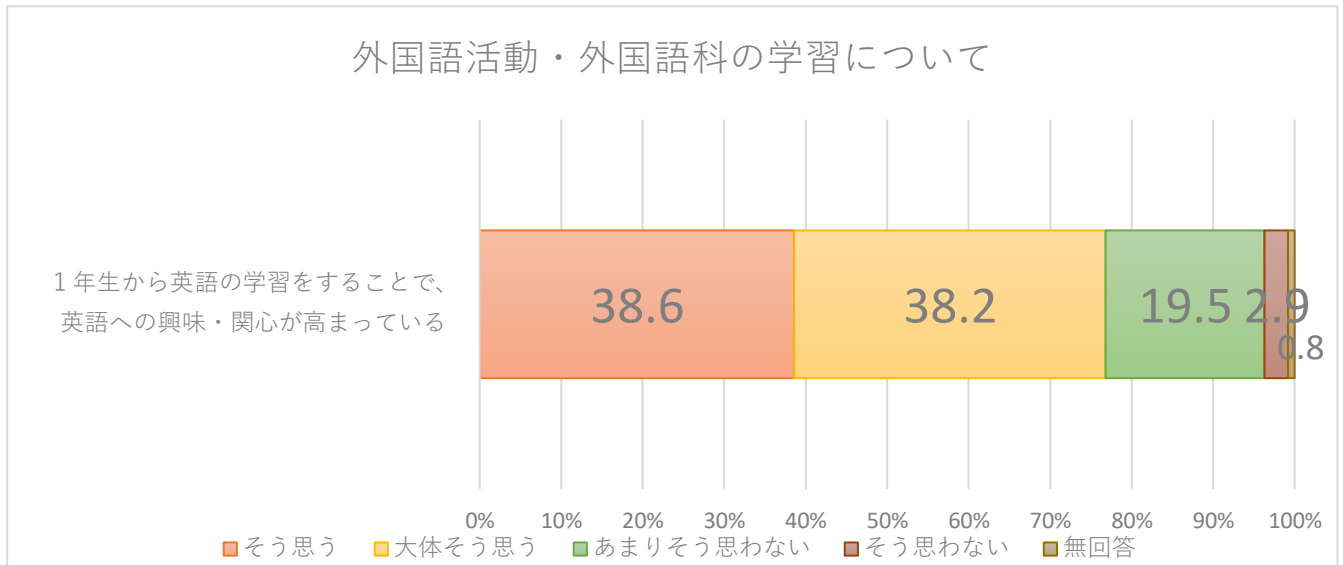
- (1) コミュニケーション自体を楽しむことや、英語を使って話すことに対する苦手意識をもち進んで表現することが難しい児童がいる。1、2学年においては、学年や学級に応じた学習活動の工夫が必要である。3、4学年では、低学年での歌やゲームでの言語への慣れ親しみから、英語を使って自分の考えや気持ちを伝えるという言語活動に近づく活動を通して、目的に応じたコミュニケーションへの気づきを促したい。5、6学年では、互いに伝え合うことの楽しさを実感できるよう、相手意識や目的意識をもって学習を進めることができるように単元計画や指導方法を工夫する。
- (2) 自分のめあてを設定したり、必要な学習を自分で選択して取り組んだりすることが難しい児童がいる。外国語活動・外国語科でのやり取りを通して、コミュニケーションを図るときに大切なことや楽しさ、自分の課題の把握と課題解決のための学習の進め方について気づきを促していきたい。

VI 外部評価

1 学校評価保護者アンケート結果（R7.12月実施、241名回答）について、以下に記す。

「お子さんは、1年生から英語の学習をすることで、英語に対する興味・関心が高まっている。」
そう思う（38.6%）、大体そう思う（38.2%）、あまりそう思わない（19.5%）、そう思わない（2.9%）無回答（0.8%）

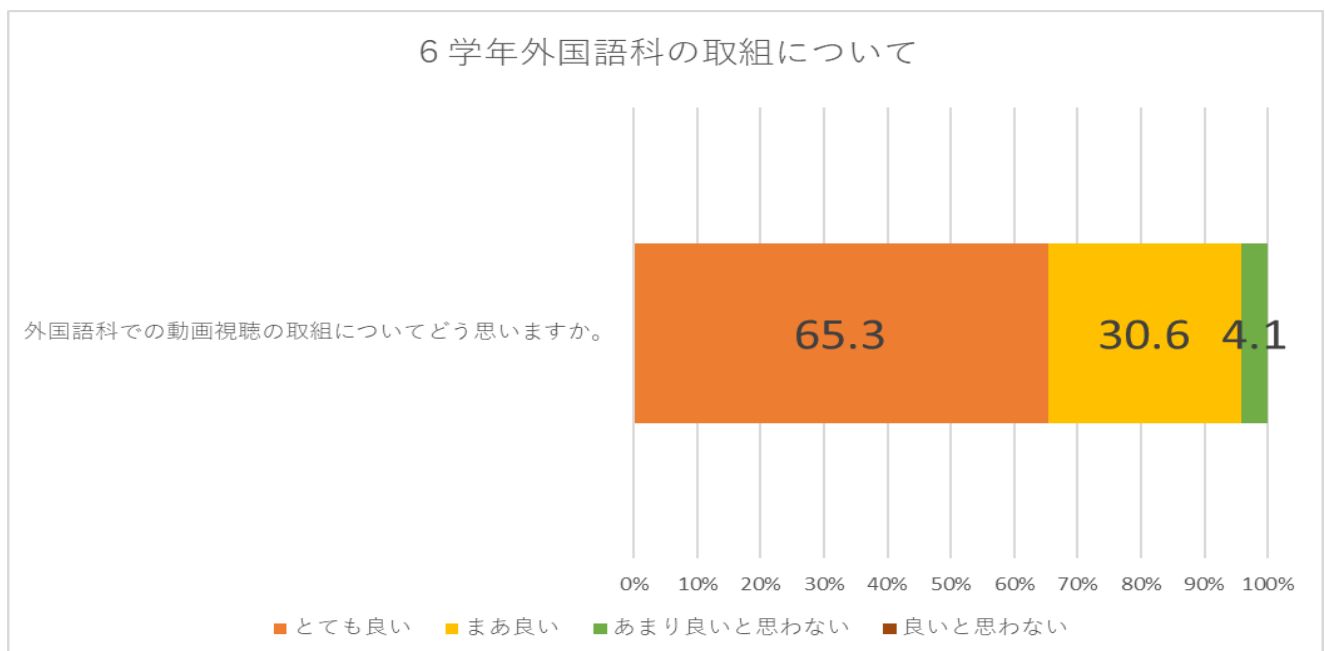
本アンケートでは、76.8%の保護者が肯定的な回答をしていた。



2 ご意見、ご感想

6学年外国語科で、英語のスピーキング動画をポートフォリオにした。動画視聴後のこれらの取組に関する保護者アンケート結果（R8.2月実施、72名回答）を以下に記す。

「外国語科での動画視聴の取組についてどう思いますか。」
とても良い（65.3%）、まあ良い（30.6%）、あまり良いと思わない（4.1%）、良いと思わない（0%）
本アンケートでは、95.9%の保護者が肯定的な回答をしていた。



- 学校で、一生懸命外国語学習を頑張っているなど嬉しく思いました。初めて英語のコミュニケーションを取っている姿を見て、とても成長しているなど思いました。
- 英会話のきっかけがあつてありがたいです。間違ってもいいので、外国語やコミュニケーションを楽しんでもらえると嬉しいです。
- 動画を見て、初めて英語で話しているところを見ました。自分の自己紹介を英語でペラペラ話せてすごいです。普段見られない姿だったので成長しているなど思い、嬉しかったです。
- 発音、文章構成ができるようになり、本人はもちろん保護者としても喜びを感じられました。英語も好きになったようで、楽しさに加えて自信を持っている姿には何よりも感激しました。
- 普段の授業の様子を見ることができないので、動画視聴を取り入れての授業はとてもいいと思いました。
- 楽しそうに英語を話している姿にびっくりしました。普段使わない英語でも小学生でこれだけ話せれば、中学生でも英語に興味を持ってくれるように思えた授業内容であると思います。
- 誰にでもわかりやすい教育をして欲しい。